

目標達成計画

作成日: 平成 23 年 12 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 18 24 48	プライマリーの役割は明文化されているが、実践についての評価をしてこなかったために、任務遂行にかなりの差が生じている。結果として利用者ケアの質の差をもたらしている。	1. プライマリー担当に伴う業務を人任せにせず、任務遂行できる。 2. 担当者会議を定期開催する。	1①プライマリーの任務遂行状況を2月中に評価する。②担当者の出勤日にその担当者の評価をマニュアルの項目に沿ってカンファレンスの時間に行う。③管理者も評価に参加する。④担当者は、自己の任務遂行状態を正しく認識し、次年度の課題と目標を設定する。⑤8月時点で中間評価をする。2勤務表作成時に会議予定を入れる。	12ヶ月
2	3 26 27 29	現状の職場の課題を解決するために、課題解決グループを組織して、勤務時間内に話し合いできるようにしているが、課題の達成状況は不十分であった。管理者が意図していることと、グループメンバーの解釈にズレがあったことが原因と思われる。	課題解決グループの「課題」を明文化し、全員が共通の認識で、課題解決に取り組むことができる。	①1月中に各グループの課題遂行状況をカンファレンスの時間に評価をする。②評価に基づき、続行・終結・新グループ発足を判断し、課題を決める。③1月の職員会議で各グループメンバーを配置をする。④2月より、グループごとに話し合いを進め、課題を明文化し、2月の職員会議で発表し、1年間課題に取り組む。	12ヶ月
3	8 34 36	先輩介護者の退職にともない、経験年数が若い職員が多くなった。ケアの質を向上していくために、職員個々の介護技術や知識を確かなものとしていく必要がある。また、互いに現状をありのままにフィードバックしあえる環境が必要である。	1. 介護実践における根拠を理解して、技術が提供できる。 2. 職員相互の信頼関係を築き、フィードバックしあえる職場風土を作る。	1①技術講習の勉強会を年6回企画する。②体験学習を年1回企画する。③事例検討会を年3回企画する。④各階層ごとに合格するまで技術チェックを受ける。2①体験学習を年1回企画する。②フィードバックやアサーションに関する勉強会をする。③②に基づき、実際にフィードバックを試みる。	12ヶ月
4	29	外部評価の都度、課題達成していない項目であったが、今年度は『北区DEまつり』にバザーで出店できた。このことでチームに活気が持て、地域との繋がりが少し見えてきたといえる。そこで、次年度は日常的に交流できる場づくりへ挑戦していきたいと考える。ただし、駐車場の確保が難しく、地域の人を集客する催しは無理。	1. クリスマス会に近隣の高齢者を招待する。	①23年度同様に手作りクリスマス会を企画し、そこに近隣高齢者(入居者の友達等)を招待する。②招待のための事前準備を9月から始める。③招待客に困っていることなどをきいてみる。④会の評価をし、③の結果からあおばでできることがあるのか、地域との連携を深めることができるか検討する。	9月～2月 6ヶ月
5	35	運営推進会議において、毎月の防災訓練推奨のご意見をいただき、今年9月以降、月1回の防災訓練に取り組んできた。災害伝言ダイヤルの練習は、ほぼ定着してきたところであるが、伝言の意図を理解していない職員もいた。	1. 月1回の訓練の意味を全職員理解でき、訓練が定着し、職員が避難誘導を身につけることができる。 2. 利用者が避難経路を分かる。	①災害伝言ダイヤルの意味を知らせる。②毎月1日に災害伝言ダイヤルの訓練を実施する。③月に1回、勤務表に防災訓練の予定を入れ、確実に実施に繋げる。④職員だけでなく、利用者にも避難経路が分かるように、「避難経路を利用者とともに歩く」ことを毎月行う。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

